

社会協通信

発行・編集／社会福祉法人 広島市社会福祉協議会
〒730-0052 広島市中区千田町一丁目 9-43 (広島市社会福祉センター内)
TEL 082-243-0051 FAX 082-243-0032
URL : <http://shakyo-hiroshima.jp/>
E-Mail : chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp

すすむ **子どもの居場所づくり** 

つながる **学習支援や子ども食堂・地域食堂**

平成25年度から広島市社会福祉協議会は、居場所づくりや社会福祉法人施設の地域貢献の取り組みに焦点をあて、この「市社協通信」にて連続して紹介してきました。

このような中、子どもたちが健やかに育つ地域社会づくりに参画したいという市民の関心の高まりや、行政施策の推進により、次のような新たな取り組みが始まっています。これらの取り組みが継続して実施できるよう、本会も協力していきたいと思えます。

なお、いずれも、始まったばかりの取り組みです。このような取り組みを広島市内にたくさん広げること、多くの子どもたちが参加しやすくなると思えます。市民の皆様へのあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

1 「戸坂地域づくり協議会らくらく」が、「らくらく広場」を開催!

広島市東区戸坂地域にある4つの社会福祉法人と地域団体や大学が連帯した取り組みです。

「戸坂地域づくり協議会らくらく」の構成団体は、(社福)交響(障害関係)、(社福)かきつばた福祉会(高齢者関係)、(社福)藤田長生会(高齢者関係)、(社福)桜が丘学園(保育園)、比治山大学、戸坂城山学区社会福祉協議会、民生委員、太田川病院など。

昨年度から5回の会合を重ね、8月4日から「らくらく広場」を(社福)交響の「きっちん&ミニマート 楽らく」(東区戸坂南)で始めています。具体的な企画は、構成団体からなる”若者会議”が練りました。まずは、夏休みの期間、宿題をしたり遊んだり、夕飯を一緒に食べる広場づくりから始めました。



※子どもや高齢者が楽しんでいるのは勿論、多分野の職員が一緒になって一つのことを成し遂げていくオモシロサも感じたひとときでした。

各記事につけられた以下のマークは、その事業が本会「地域福祉推進第7次5か年計画」のどの基本目標に属するかを表しています。

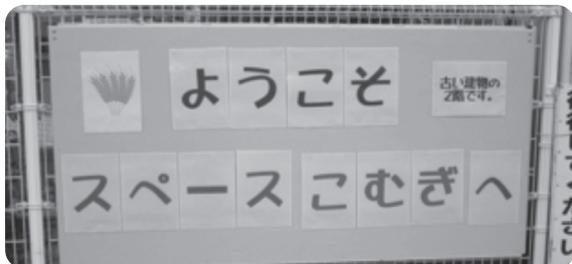


2 広島市補助事業「ひとり親家庭等居場所づくり事業」の採択を受けて

(1) 社会福祉法人西中国キリスト教社会事業団 広島キリスト教社会館による「スペース こむぎ」

法人としては、保育所やデイサービスセンター、訪問介護事業所、居宅介護事業所を運営しています。従来から、放課後の子どもたちのグループ活動やフリースペースに長く取り組んできた実績を基に「こむぎ」(西区小内町)に発展しました。

ここでは、「おかえり」と言える子どもたちの居場所です。毎週水・金曜日の夜7時に集まってきたら、遊んでもいいし、勉強してもいい。月2回は無農薬有機野菜で調理されたおいしい夕食もあります。来る子どもたちに合わせて、内容も臨機応変に変えていくとのことでした。



(2) 若者活動サポートセンターあおぞらによる「もちのき」

「もちのき」は平成26年8月20日の豪雨災害を機に集結した、地域住民と若者のネットワーク組織である「若者活動サポートセンターあおぞら」(安佐北区可部)が運営する子どもたちの居場所です。

毎週木曜日の夕方4時から開室して、宿題やスタッフお手製の学習プリントをしたり、トランプゲームやパズルなどをしながら、「楽しい学び」を心掛けて活動されています。月2回は一汁一菜程度の軽食を用意し、子どももスタッフも一緒に楽しく、おいしく食事をされています。今後も若者たちの力で試行錯誤しながら、子どもたちに合ったプログラムを考えていきたいと話されていました。



3 自主事業として、子ども食堂、地域食堂を開設 広島YWCAによる「カレーパーティー」

広島YWCA(東区若草町)では毎月第4火曜日の夕方5時半に地域の子供たちが集まり、カレーパーティーを開催されています。近隣の住民の方々が作られたカレーをみんなで一緒に食べた後は、射的ゲームやコマ作りをして楽しい時間を過ごしています。

カレーを選んだ理由は、作る手順が大体同じで、みんなで作ることができるから。コマ作りにも言えることですが、「自分たちでつくる知恵」を子どもたちに伝えていきたいという思いがあります。「ここに来たら何か楽しいことをやっているよ」という、気軽に集える場づくりを企画されていました。



4 子どもの学習支援の広がり

ひとり親家庭学習支援事業が、平成28年度から市内6区での開催に広がっています。

広島市くらしサポートセンターやスクールソーシャルワーカーが学習支援の必要があると判断した小4~中3の子供たちに対して、集合型の学習支援も始まりました。集合型では、1会場12名程度を定員として、子ども3名に対して概ね1名の大学生等が学習支援を行ないます。その内容は、個別の学習指導や中学3年生の受験対策、進路相談等です。

「市社協通信第57号」で紹介した、地域でのさまざまな学習支援の取り組みも、この夏、活発に実施されました。

広島市社会福祉センターの歴史

広島市社会福祉センター（広島市の婦人福祉会館（現在の女性福祉センター）と広島市社会福祉協議会の社会福祉会館の合築）は、昭和43年4月10日に鉄筋コンクリート造、地下1階地上6階塔屋付、建物延面積3,787.763㎡、総工事費238,319,000円で市民の日常生活に密着した福祉増進のための施設として建設されました。当時としては先端の建物で、全国から関係者の視察がありました。

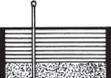
市民の生活文化の向上と社会福祉の増進を図るための拠点として、生活相談、身上相談等の各種の相談、生業就労の指導、展示会等の開催と場の提供、生活文化及び社会福祉に関する図書・資料等の利用、結婚相談に応じ、結婚式・結婚披露宴の場の提供、婦人団体、母子福祉団体及び社会教育団体への必要な便宜の提供を主な事業として始めました。

その後、社会情勢の変化に伴い、広島市社会福祉協議会が実施する福祉業務も増え、昭和57年11月にはボランティア情報センターを当センターに開設し、これに伴い昭和58年3月には、結婚相談、結婚式・結婚披露宴の場の提供を廃止しました。

建設当時の施設



各階案内

				
6F	料理教室	こども室	第1会議室	第2会議室
5F	生活相談室	第1講習室 (和)	第2講習室 (和)	第3講習室 (洋)
4F	母子相談室	技能習得室	作業室	喫茶室 (談話室)
3F	結婚式場、披露室、貸衣裳室、美容着付室、写場、控室			
2F	ホール	第1喫茶室・浴室 (和)	第2喫茶室 (和)	第1会議室 第2会議室
1F	結婚相談所	心配ごと相談所	技能習得室	図書・資料室 管理事務室
1F	食堂	集会室	機械室	

現在、当センターには、広島市社会福祉協議会をはじめ、福祉関係団体が入居し、地域の福祉ニーズを反映した活動を幅広く展開しています。

なお、平成28年12月5日に、当センターの機能を拡充・強化した「広島市総合福祉センター」が広島駅南口Bブロック市街地再開発ビル（BIG FRONTひろしま）（広島市南区松原町5番1号）内に、新たな広島市の地域福祉の推進拠点として開設されます。

「センター移転イベントについて」

平成28年12月、広島市社会福祉センターは広島市総合福祉センターへ移転します。

この移転を受けて、平成28年8月28日に広島市ボランティア情報センター利用者連絡会（略称、「利用連」）の主催で、今までお世話になってきた千田町の社会福祉センターに感謝の気持ちを込めて、「ボラセン感謝祭～ありがとう！！千田町の福祉センター～」が開催されました。

このイベントは、社会福祉センターにおいて利用連が主催する最後のイベントであり、当日は390名（ステージ出演者、関係者含む）の参加がありました。

利用連は、広島市ボランティア情報センターに利用団体として登録し、この会の主旨に賛同するボランティアグループや福祉団体で構成されています。当日は、利用連構成団体による、ステージ発表や、喫茶コーナー、福祉体験コーナー、各団体の活動を紹介したポスターの展示が行なわれました。

ステージ発表では、かぶらや本舗による和太鼓演奏やボランティア健福17による踊り、広島演芸団つばさによる日舞や楽器の生演奏、老大院OB会によるハーモニカや大正琴の演奏、車いすダンスクラブによる車いすダンス、ファッションセラピーの会ヒロシマによる日舞等があり、イベントを盛り上げていただきました。

喫茶コーナーでは、食券制で焼き込みご飯やたこ焼き、コーヒー等の飲物が販売され、ゆったりと過ごしながら、つながりを持っていただく空間として多数の参加者の利用がありました。

展示コーナーでは、各団体の活動を紹介するポスターの展示や活動PRがあり、参加者同士でつながりをもっといただく良い機会となりました。

福祉体験コーナーでは、視覚障害者福祉機器の紹介や手話体験、要約筆記体験や点字体験、車いす体験が行なわれ、初めての方も経験者の方も、体験することで、学びにつなげていただきました。

センター移転イベントは、大盛況の内に終了しました。これも、1年も前からイベント開催に関わってくださった利用連の方々やイベントに参加してくださった皆様方のおかげです。本当にありがとうございました。

12月の移転後も、社会福祉センターで得たつながりを大切に、引き続き頑張っていきたいと思えます。





「平成28年熊本地震について」

平成28年4月14日以降、熊本地方で発生した大地震により、広範囲で多数の家屋の崩壊や土砂災害もあり、多くの尊い命が奪われました。この熊本地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

平成26年8月20日の豪雨災害では、熊本県の方々に様々な方法で広島を応援し、支えていただきました。

本会では、被災された方々のために、その方々を支えている被災地の地域や社協のために応援できることを考え、次の取り組みを行ないました。

- ① 災害ボランティアセンターへの職員派遣
- ② ボランティア活動保険加入手続き
70名を超える方に、被災地での活動のための保険加入手続きを行ないました。
- ③ ひろボラネット応援隊（広島県社協主催のボランティアバス・2泊3日）への参加調整
- ④ 熊本市社協への支援金
- ⑤ 広島に避難してこられた方々への見舞金提供ほか生活支援

ひろボラネット応援隊では全3便を運行し、第1便（5/30発）と第2便（6/8発）は熊本県御船町、第3便（6/15発）は熊本市へ送り出されました。本会においても関係団体や個人ボランティアに参加を呼びかけ、延べ17名の方が「広島での豪雨災害でお世話になった恩返しをしたい」と応じてくださいました。後日参加された方から、現地では瓦礫の撤去やブロックの解体作業を中心に活動が行なわれ、被災者のためにとみんな一生懸命活動されていたとお聞きしました。急な呼びかけにも関わらず、快く応じていただいた皆様、この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後も被災地、被災者のために何ができるのかを考え、被災地復興に向けて尽力していきたいと思っております。

「地域高齢者交流サロン運営モデル事業補助」と「住民主体による訪問型生活支援モデル事業補助」を実施します

広島市社協は、地区社協や町内会・自治会、老人クラブ連合会、NPO法人などを対象に、平成28年10月から介護予防・日常生活支援総合事業モデル事業として「地域高齢者交流サロン運営モデル事業」と「住民主体による訪問型生活支援モデル事業」を実施する団体を公募し、それぞれの事業を実施する団体に対し補助金を交付することになりました（広島市補助事業）。平成29年4月からそれぞれの事業を広島市が本格実施するために、事業実施に際しての課題把握や改善策の検討を進めていくモデル事業です。

「地域高齢者交流サロン運営モデル事業」とは、地区社協などが実施している「ふれあい・いきいきサロン」などを活用して、高齢者を含む全ての住民が気軽に通える場の活性化を図る事業です。サロンでのメニューを増やし活性化を図るために「ダーツセット」や「囲碁セット」、「将棋セット」を購入したり、ひざが痛く正座ができない人や、腰が痛く量での立ち座りが困難な人でも気軽に利用できるように「イス」を購入するというサロンもあり、補助金を有効に活用し、地域において介護予防に資する様々な「通いの場」の活性化が図られます。（採択数104ヶ所）

「住民主体による訪問型生活支援モデル事業」は、地区社協のボランティアバンクなど、要支援者への低料金で安定的かつ継続的な生活支援サービスを提供する団体を応援するしくみです。支援の内容には、掃除や洗濯など現行の予防訪問介護で提供されていた内容に加えて、ペットの世話や庭の草取り等、これまで介護保険では対応できなかった課題への支援も含まれ、要支援者の気がかりなことへ幅広い対応が可能になっています。（採択数11団体）

広島市は、2025年に団塊の世代が75歳以上になることで、介護などの支援が必要な状態になる人が更に増加していくと考えられることを踏まえ、住み慣れた地域で介護が必要な状態になっても最後まで暮らしていくことができる地域づくりをすすめる「地域包括ケアシステム」の確立を目指しています。

今回の介護保険法の改正に伴うモデル事業の実施も、この「地域包括ケアシステム」の実現に向けての動きとなります。

広島市社協及び各区社協では、制度改正などの動きの中で、今後も地区社協を始めとした地域で活動する皆様方を応援し、どうすれば住みよい地域づくりをすすめていけるのかを地域の皆様方と共に考え、行動していきたいと考えています。そのためにも地域の方々の声を聞かせていただきたいと思います。社協職員が地域へ行かせていただいたときは、ぜひ皆様方の声を聞かせてください。

